

コスモス 12月号

第68巻 第12号

◆宮柁ニカレンダー（21）十二月の歌

あたふたと何して過ぎし年かとも大晦おほつこもりの夜
を更かしをり
歌集『多く夜の歌』

昭和二十八年の大みそかの夜、一年を振り返った感慨が歌われている。この年満四十一歳、後年の病苦を知るはずもなく壮年の気は横溢していた。

短歌に関する事項だけでも、三月コスモス創刊、四月角川文庫版『宮柁二歌集』刊行、十月歌集『日本挽歌』刊行と慶事が続いた。一方で角川文庫本に解説を寄せてくれた釈道空が九月に亡くなり、コスモス十二月号はその追悼特集を組んでいる。

充実の一年を「何して過ぎし年かとも」と言うところに含羞の人の面影がある。（津金 規雄）